

八波則吉 ハツノリキチ 國語教育者。明治九年二月一日福岡縣宗像郡上三西郷村生れ、昭和二十八年十一月七日歿（八六—九五三）。筆名八波其月、其月生、福山靜一。第五高等學校を経て、明治二十四年東京帝國大學文科大學國文學科卒。第四高等學校、次ぐ五高教授と務めた。英米文學者八波直則の父。

著書に『草花』（八波其月名、明治四十四年九月—二十二年石川・林有聲館）、『應用修辭學講話』（大正二年十一月十五日散文館）、『おとぎの男の心』（八波其月名、大正五年六月—二十日散文館）、『縮刷趣味と修養』（大正七年九月十日散文館）、『作文講話即席と宿題』（八波其月名、大正七年十一月—二十日研究社）、『精神講話詩趣を加味して』（大正十三年七月十八日散文館書店）、『讀本中心創作本位の文章法』（大正十四年十月—二十五日教育研究會）、『散文詩鑑賞から創作へ』（大正十五年十月—二十日散文館）、『唱歌作歌法講話』（昭和六年十月十五日東京文社）、隨筆『希望を充ちて』（昭和六年十一月十五日教育研究會）、『國語教育大道』（昭和八年一月—二十八日東洋圖書株式合資會社）、『八波 現代實業國語讀本豫習辭書』  
 『卷五』（昭和九年一月十五日東京辭書出版社）、隨筆『高きこゝ登る』（昭和九年二月—二十一日東洋圖書株式合資會社）、『高等模範』

作文四（編、昭和

十年二月—十五日英進社）、『秋月先生記念』（内題「秋月胤永先生記念録」編、昭和十年十月—二十五



- 日熊本・五高同志會「會報」第九號附錄）、口文話婦人手紙文範口（昭和十一年一月）二十、二百大日本雄辯會講談社）、口校註玉口のち・鈴屋集  
 ・松屋文集新鈔口（昭和十一年五月）二十日英進社）、口校註花月草紙・  
 治海文藻・檀園文集新鈔口（昭和十一年五月）二十日英進社）、口（こ）  
 のぞ物語口（昭和十五年一月十五）日教育研究會）、口講演隨筆時句の反映口  
 （昭和十六年七月十五日教育研究會）、口校註徒然草新鈔口（修正）二版  
 ・昭和十六年九月十五日英進社）、口少國民作文傑作集口（昭和十七  
 年七月）二十日英進社）等。